

## 【参考資料 1】

### ○第 1 回分科会での主要な意見のとりまとめ

余市協会病院線は現在の運行便数は妥当と考えられるものの、運行開始から 20 年程度経過しており、住民のニーズに合った運行内容へと見直し、生産性を上げていく必要がある。

生産性を上げる方法としては、自動車運転免許返納を促進していくとともに、余市駅裏側の地区に重点を置いた買物、通院目的の利用や、役場など公共施設へのアクセスに配慮する。また大きな運行収益が期待される黒川町まほろば団地等へのアクセスなど通勤・通学利用に対応していくことや、公共交通空白地域となっている郊外において公共交通を確保し、これと連携・接続を図ることが考えられる。

運行方法は余市町のまちづくりと分りやすさに配慮し、余市駅周辺のバス停留所の集約配置について検討するとともに、時間帯によって輸送サービスを変えることなどにより町内公共交通を確立していく必要がある。

なお郊外公共交通は、高齢者の買物・通院目的のためにコミュニティバス、乗合タクシーといった従来の運行方法に加え、タクシーと同様の輸送サービスを提供することができる「定額タクシー」が考えられる。なお観光目的やレクリエーション目的の送迎方法について検討していくことが必要である。

### ○主要な意見（個別）

#### 【採算に見合った利用人数を示すことが必要】

・余市協会病院線について単純な利用人数ということでは、現状で便当り 7、8 人に対し 15 人以上乗らないと採算が合わない。

・余市協会病院線を始め公共交通は、事業として適正便数をしっかり示す必要がある（事業として持続可能なものにしていくために、採算が合う利用人数を示す必要がある）。

#### 【現在のニーズに合った運行内容の見直しが必要】

・余市協会病院線は当該病院からの要望もあって 20 年前に考えたもの。現在でもこのコースが決して良いとは思っていない。

#### 【生産性の向上】

・今ある資源（中央バスの運行・運行車両）を活用して生産性を上げていく。

#### 【まほろば団地へバスで直接アクセス】

・余市協会病院線について登街道の利用が少ない理由は、中央のまほろば団地まで距離があるためと思う。

#### 【駅裏を重点的に通院と買物を中心とした運行サービス】

・余市駅の裏側に地区を重点的に、通院と買物を中心とした高齢者の利用サービスに配慮していく。

#### 【通勤・通学利用を考慮することで運行収益を確保】

・通勤・通学利用は毎日利用があり、バス会社にとって定期収入となるため大きい。時間

## 【参考資料 1】

帯によって輸送サービスを変えることも含め考えることが必要。

### 【通院、買物など住民の生活交通に配慮した余市協会病院線の運行】

・町内には様々な病院があるので余市協会病院線は、余市協会病院のアクセスのみに特化する必要はない

・余市協会病院線は、アンケート調査で買物や病院、役場などの公共施設に利用しているとのことで、余市協会病院線のみに特化すべきではなく、住民の利用に沿った形にするべき。

### 【バス停留所の集約など余市駅周辺のまちづくりへの配慮】

・余市駅前には停留所が分散配置されて非常に分りづらい。ある程度集約することが観光客やまちづくりにとっても良い。

### 【バスの乗車方法や運行内容のPRが必要】

・バスの乗り方や、行き先を伝えるためのPR等が必要。

### 【定額タクシーの検討】

・交通空白の部分に様々な選択肢が出てくる。その一つは「定額タクシー」というものが考えられる。タクシーは乗合ではなくタクシーとして走らせることでバスとの競合を避ける。

### 【運転免許返納の促進】

・高齢者の車の事故が増え、深刻な社会問題になっている。自動車運転免許の返納数を増やしていることが必要。

### 【郊外は高齢者主体、ニュータウンは通勤・通学利用を考慮】

・公共交通が無い沢町、美園町、山田町は高齢者の利用が主で、黒川のまほろばの郷はお子さんがある世帯が多いので、そのような地域には、通勤・通学利用があると思う。

### 【余市協会病院線と郊外公共交通の連携・接続】

・例えば豊丘町から停留所まで歩くことは大変で、中央バス路線の水産試験場まで輸送など、郊外における公共交通も必要と思う。

### 【観光目的への配慮】

・ワイナリーや果樹園などの観光施設に行くことができるコミュニティバスなどの公共交通機関が必要で、観光目的にも配慮していくべき。

### 【レクリエーション目的への配慮】

・高齢者からあゆ場公園パークゴルフ場へのバスについて問い合わせもある。